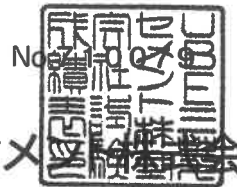


# セメント試験成績表

2026年2月度

UBE三菱セメント株式会社





種類 品質	普通ポルトランドセメント JIS R 5210				早強ポルトランドセメント JIS R 5210				高炉セメントB種 JIS R 5211				
	JIS 規格値	試験成績			JIS 規格値	試験成績			JIS 規格値	試験成績			
		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)	
密度 g/cm³	—	3.16	—	—	—	3.14	—	—	—	3.04	—	—	
比表面積 cm²/g	2500以上	3250	73	—	3300以上	4550	84	—	3000以上	3980	83	—	
凝結	水量 %	—	28.1	—	—	30.0	—	—	—	30.7	—	—	
	始発 h-min	60min以上	2-18	—	(1-45)	45min以上	1-33	—	(1-15)	60min以上	2-51	—	(2-30)
	終結 h-min	10h以下	3-23	—	4-20	10h以下	2-30	—	3-10	10h以下	4-17	—	5-40
安定性	バット法	良	良	—	—	良	良	—	—	良	良	—	—
圧縮強さ N/mm²	1 d	—	—	—	—	10.0以上	26.8	1.55	—	—	—	—	
	3 d	12.5以上	30.3	1.57	—	20.0以上	48.1	1.74	—	10.0以上	21.7	1.42	—
	7 d	22.5以上	45.8	1.71	—	32.5以上	58.7	1.93	—	17.5以上	34.1	1.68	—
	28 d	42.5以上	61.6	1.86	—	47.5以上	68.2	1.93	—	42.5以上	61.3	1.95	—
水和熱 J/g	7 d	—	330	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	28 d	—	382	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
化学成分 %	酸化マグネシウム	5.0以下	1.12	—	1.66	5.0以下	1.07	—	1.62	6.0以下	3.30	—	3.65
	三酸化硫黄	3.5以下	2.38	—	2.57	3.5以下	2.90	—	3.24	4.0以下	2.02	—	2.29
	強減熱量	5.0以下	2.46	—	2.76	5.0以下	1.01	—	1.42	5.0以下	1.54	—	2.15
	全アルカリ	0.75以下	0.48	—	0.59	0.75以下	0.48	—	0.62	—	—	—	—
	塩化物イオン	0.035以下	0.019	—	0.025	0.02以下	0.007	—	0.011	—	0.013	—	—

備考 ○ ポルトランドセメント (全アルカリの最大値のうち直近6ヶ月の最大値)  
 ・普通ポルトランドセメント…………… 0.63%  
 ・早強ポルトランドセメント…………… 0.64%  
 ○ 高炉セメントB種  
 ・ベースセメントの全アルカリ…………… 0.48%  
 ・高炉スラグの分量…………… 40~45%  
 1. 試験方法は JIS R 5201、JIS R 5202、JIS R 5203、JIS R 5204 による。  
 2. 28d圧縮強さおよび28d水和熱は前月度の値を示す。



◎ お問い合わせその他のご連絡先  
 〒730-0031 広島市中区紙屋町2-1-22  
 広島興銀ビル8F  
 UBE三菱セメント株式会社  
 中国支店  
 TEL 082-247-9613

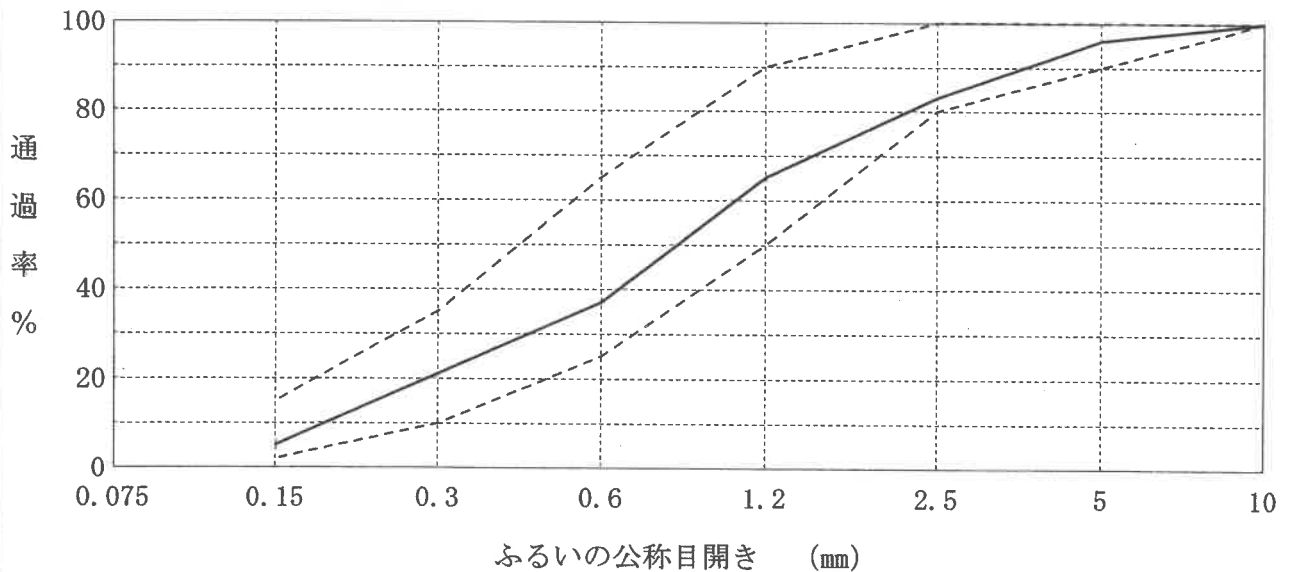
試験規格	骨材のふるい分け試験表	検 印 欄	
JIS A 1102		主 任	試験係
			

試験月日	令和 8年 2月 5日
試 料	産地品名 津山市加茂町知和 採取月日 令和 8年 2月 4日 採取場所 ダンプトラック上



ふるい分け前の試料の質量	508.0 (g)				ふるい分け方法	手動				
ふるいの公称目開き (mm)	連続する各ふるいの間にとどまる試料の質量及び質量分率				各ふるいに各ふるいを連続するふるい		範囲	参考		
	縮分①	縮分②	縮分計		通過するもの		上限	下限		
	(g)	(g)	mr(g)	(%)	(g)	(%)	(%)	(%)		
10	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0	100	0	100 - 100	---
5	18.5	0.0	18.5	4	18.5	4	96	4	100 - 90	228
2.5	67.7	0.0	67.7	13	86.2	17	83	13	100 - 80	161
1.2	93.3	0.0	93.3	18	179.5	35	65	18	90 - 50	114
0.6	74.7	68.5	143.2	28	322.7	63	37	28	65 - 25	81.1
0.3	42.7	38.6	81.3	16	404.0	79	21	16	35 - 10	57.4
0.15	39.2	40.1	79.3	16	483.3	95	5	16	15 - 2	40.6
受皿	11.9	12.0	23.9	5	507.2	100	0			
合 計			507.2	100						

粗 粒 率	2.93	規 格 値	2.90±0.15	判 定	⊕
連続するふるいの間にとどまるものの質量分率		規 格 値 (%)	45未満	判 定	⊕
ふるい分け前後の試料質量差	0.2	規 格 値 (%)	1.0未満	判 定	⊕

粒 度 曲 線



備考：

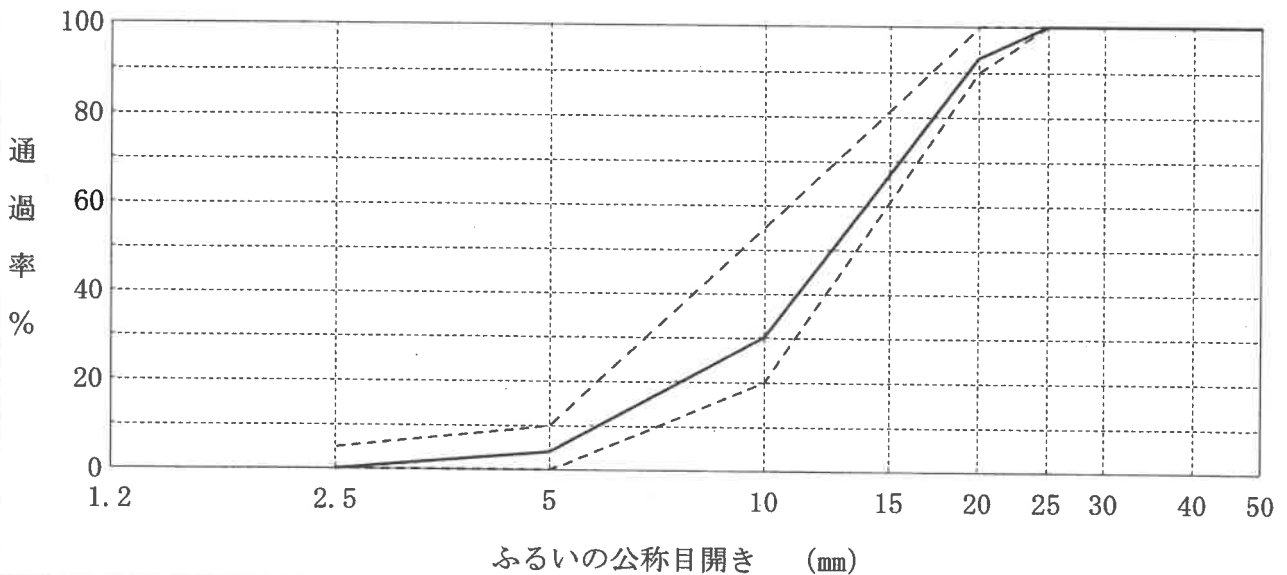
試験規格	骨材のふるい分け試験表	検 印 欄	
JIS A 1102		主 任	試験係
			

試験月日	令和 8年 2月 5日
試 料	産地品名 津山市加茂町知和 採取月日 令和 8年 2月 4日 採取場所 ダンプトラック上

ふるい分け前の試料の質量	5027.0 (g)				ふるい分け方法	手動	
ふるいの公称目開き (mm)	連続する各ふるいの間にとどまる試料の質量及び質量分率		各ふるいにとどまる試料の質量及び質量分率		各ふるいを通す質量分率 (%)	範囲 上限 下限 (%)	
	(g)	(%)	(g)	(%)			
50	0.0	0	0.0	0	100	100	100
40	0.0	0	0.0	0	100	100	100
30	0.0	0	0.0	0	100	100	100
25	0.0	0	0.0	0	100	100	100
20	363.3	7	363.3	7	93	100	90
15						-	-
10	3154.2	63	3517.5	70	30	55	20
5	1294.2	26	4811.7	96	4	10	0
2.5	214.4	4	5026.1	100	0	5	0
受皿	0.0	0	5026.1	100	0		
合 計			5026.1	100			

粗 粒 率	6.73	規 格 値	6.85±0.20	判 定	⊕
ふるい分け前後の試料質量差	0.0	規 格 値 (%)	1.0未満	判 定	⊕

粒 度 曲 線



備考：



JNLA Z80107JP



## 試験報告書

ふじもと組 殿

岡山県津山市加茂町知和467-5

試験品内容： [種 別] JIS A 5308:2024 附属書JA「レディミクストコンクリート用骨材」  
JIS A 5005:2020「コンクリート用碎石及び砕砂」  
粗骨材 コンクリート用碎石 2005 A (岩質：安山岩)  
[大 き さ] 20～5mm  
[採 取 日] 2025年4月9日  
[産 地] 岡山県津山市加茂町知和  
[採 取 場 所] スtockヤード  
[製 造 業 者] (株)ふじもと組

試験項目： 1. 骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法) ✓

受領日(試料持込日)： 2025年 4月 10日

試験日： 2025年 4月 10日 ～ 2025年 10月 17日

試験結果： 次頁以降のとおり

特記事項： ー

試験実施場所：一般財団法人 日本品質保証機構 関西マテリアルテクノ試験所 試験室

- (注) 1. 上記試験品は、試験申込者により試験実施場所へ持ち込まれたものである。  
2. 試験品内容等については、試験申込者提出の試験申込書に基づき表記したものである。  
3. 試験結果は当該試験品に対する結果であり、製品すべてを保証するものではありません。

試験の結果は、上記のとおりであることを報告します。

2025年 11月 28日

大阪府東大阪市水走3丁目8番19号  
一般財団法人 日本品質保証機構  
関西マテリアルテクノ試験所

所 長 井上 到

技術管理者 那良 時義

この試験報告書の転載、一部分の複製をするときは、事前に当機構の承認を受けてください。  
尚、報告書には改ざん防止策を施しています。

一般財団法人 日本品質保証機構



## 1. 骨材のアルカリシリカ反応性試験（モルタルバー法）

(1)試験方法 JIS A 1146:2022「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」による。

- ・粒度調整した代表試料の粒度分布：粒度区分A
- ・湿度95%以上を確保した手段：吸取紙による被覆及び容器底面の水張り

(2)使用したセメント ・種別：普通ポルトランドセメント

・販売会社名：一般社団法人セメント協会

・酸化ナトリウム(Na<sub>2</sub>O) 0.27 %

・酸化カリウム(K<sub>2</sub>O) 0.38 %

・全アルカリ量(R<sub>2</sub>O) 0.52 %

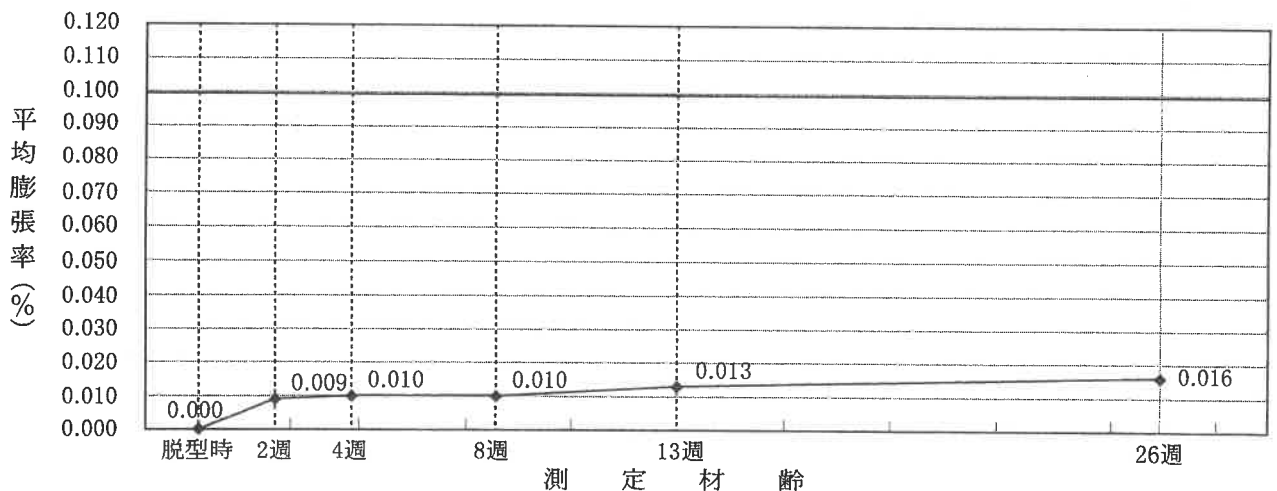
・水酸化ナトリウム水溶液を加えた後のセメントの全アルカリ量：1.2 %

(3)判定基準 骨材のアルカリシリカ反応性の判定は、供試体3本の平均膨張率が、測定材齢26週で0.100%未満の場合は、「無害」とし、0.100%以上の場合は「無害でない」とする。

[備考] なお、測定材齢13週で0.050%以上の膨張を示した場合は、その時点で、「無害でない」としてもよい。測定材齢13週で0.050%未満のものは、その時点で、「無害」と判定してはならず、測定材齢26週まで試験を続けた後に判定しなければならない。

### (4)試験結果

膨張率 (%)	測定材齢	脱型時	2週	4週	8週	13週	26週	判定
	試験No.							
1	—	0.009	0.011	0.011	0.014	0.016	無害 ✓	
2	—	0.009	0.010	0.010	0.013	0.016		
3	—	0.009	0.009	0.010	0.013	0.016		
平均	0.000	0.009	0.010	0.010	0.013	0.016		
外観観察	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし		





試験番号 A-25-5-0030 1/2  
受付日 令和 7 年 6 月 9 日  
発行日 令和 7 年 12 月 12 日

骨材のアルカリシリカ反応性試験結果報告書

【モルタルバー法】

JNLA登録試験事業者  
ベルテクス株式会社 試験分析センター  
福井県鯖江市二丁掛町第7号6番地  
TEL:0778-62-1000 FAX:0778-62-7723  
発行責任者 センター長 小林 宏成

試験結果は、本報告書のとおりであることを証明します。

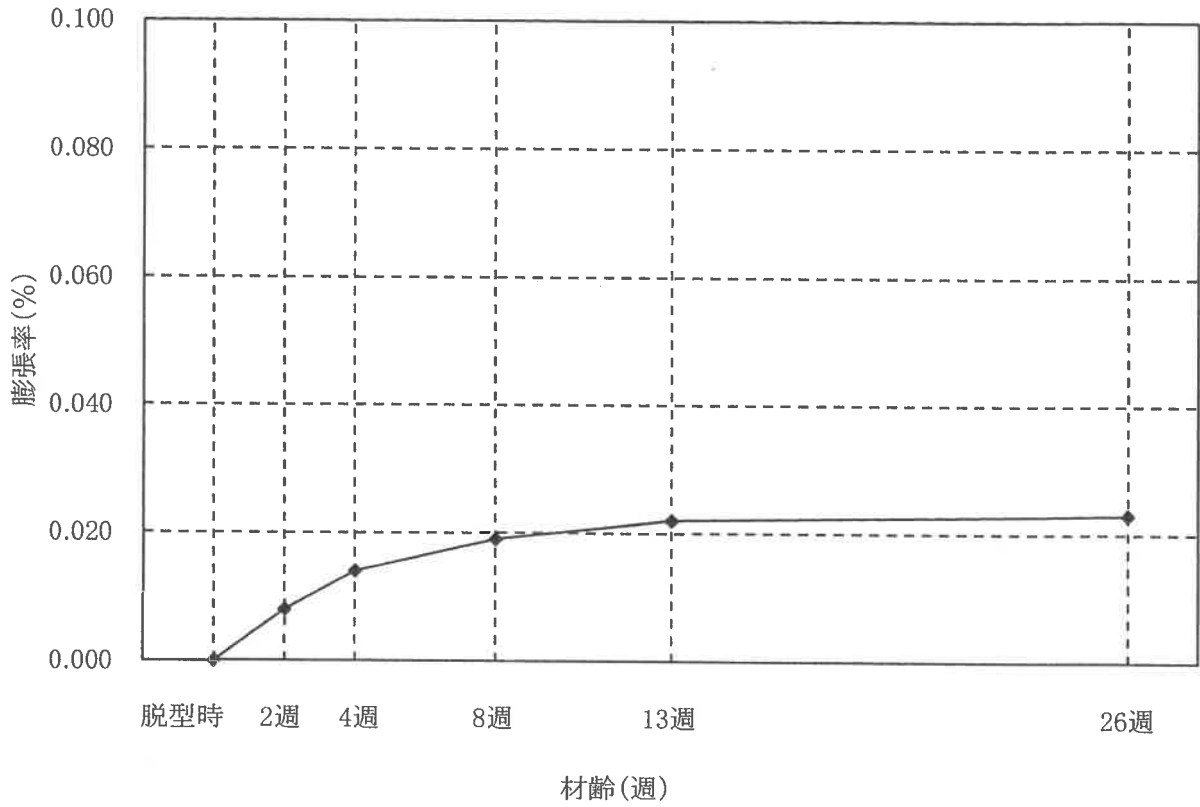
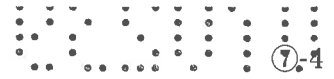
Table with 4 main sections: 1. 依頼者 (Client) info: 株式会社 きたむら, 所在地 鳥取県鳥取市国府町岡益64-4. 2. 試験日 (Test Date): 令和 7 年 6 月 12 日 ~ 令和 7 年 12 月 11 日. 3. 試験方法 (Test Method): JIS A 1146:2022 「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」による. 4. 試験結果 (Test Results): Expansion rate table showing values for 2, 4, 8, 13, and 26 weeks, with an average of 0.023% and '良' (Good) appearance.

技術管理者 榎田 直也  
試験担当者 江指 尚美

<本書の取扱いについて>

- 本書の試験結果は、本書中に記載の試験体について得られたものです。
- 本書を複製して第三者に開示する場合は、必ず全文を複製することとし、一部分だけの複製は行わないで下さい。
- 本書の内容を転載する場合は、文書により事前に本所の承認を得るようにして下さい。





アルカリシリカ反応性試験(モルタルバー法)による膨張率



シーカ・ジャパン株式会社

(株)きたむら

御中

## 2026年 1月度～2026年 6月度 コンクリート用化学混和剤(JIS A 6204)試験結果報告書

種類 高性能減水剤 (I種)

商品名 シーカ ビスコクリート ACE 390 (100%)



12/26

## 1. コンクリートの試験結果

項目		JIS A 6204による規定値	形式評価試験値	性能確認試験値	
フレッシュ コンクリート	減水率 %	12 以上	15 ✓	15	
	ブリーディング量の比 %	— 以下	—	—	
	ブリーディング量の差 $\text{cm}^3/\text{cm}^3$	— 以下	—	—	
	凝結時間の差 分	始発	+90 以下	-30 ✓	-10
		終結	+90 以下	-35 ✓	-10
経時変化量	スランプ cm	— 以下	—	—	
	空気量 %	— 以内	—	—	
硬化 コンクリート	圧縮強度比 %	材齢1日	— 以上	—	
		材齢2日 (5°C)	— 以上	—	
		材齢7日	115 以上	133 ✓	149
		材齢28日	110 以上	119 ✓	135
	長さ変化比 %	110 以下	94 ✓	—	
凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %)		— 以上	—	—	

注記1.  $1\text{m}^3$ 当たりの化学混和剤の使用量 形式評価試験  $7.00\text{ kg/m}^3$  性能確認試験  $7.00\text{ kg/m}^3$ 注記2. 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年11月の試験結果である。ただし圧縮強度の性能確認試験は1年に1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年5月の試験結果である。注記3. この表に表示している形式評価試験は、2024年9月に ホゾリスソリューションズ(株)技術開発センターで実施した試験結果である。2. 塩化物イオン(Cl<sup>-</sup>)量及び全アルカリ量

項目	JIS A 6204 による規定値	形式評価試験値	性能確認試験		
			化学混和剤中の含有量	$1\text{m}^3$ 当たりの化学 混和剤の使用量	試験値
塩化物イオン(Cl <sup>-</sup> )量	0.02 kg/m <sup>3</sup> 以下	0.00 kg/m <sup>3</sup>	0.00 %	7.00 kg/m <sup>3</sup>	0.00 kg/m <sup>3</sup>
全アルカリ量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下	✓ 0.03 kg/m <sup>3</sup>	0.4 %	7.00 kg/m <sup>3</sup>	0.03 kg/m <sup>3</sup>

注記1. 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年11月の試験結果である。注記2. この表に表示している形式評価試験は、2024年9月に ホゾリスソリューションズ(株)技術開発センターで実施した試験結果である。

## 3. その他の項目

項目	規格値	試験値
密度 (g/cm <sup>3</sup> , 20°C)	1.01 ~ 1.07	1.03 ✓

注記. この表に表示している試験値は、2025年11月の試験結果である。

コンクリート中の塩素イオン含有量測定データ  
(積みブロック)

株式会社 きたむら

8年 2 月度

製品名: \_\_\_\_\_

測定器具: ソルメイト100



月 日	No.	コンクリート中の塩素 イオン含有量 (kg/m <sup>3</sup> )	平均値 (kg/m <sup>3</sup> )	規定値 (kg/m <sup>3</sup> )	合否 判定
2/2	1	0.020	0.022	0.3以下	合
	2	0.020			
	3	0.026			
2/9	1	0.024	0.023	"	合
	2	0.024			
	3	0.020			
2/16	1	0.026	0.025	"	合
	2	0.026			
	3	0.024			
2/24	1	0.028	0.024	"	合
	2	0.020			
	3	0.024			
	1				
	2				
	3				
備 考	測定器具は (財) 国土開発技術研究センター評価品				

## アルカリ総量計算

令和8年2月度

(積みブロック)

株式会社きたむら

鳥取県鳥取市国府町岡益64-4番地

配合

単体量(kg/m <sup>3</sup> )				
水	セメント	砕石	砕砂・鍍物砂	混和剤
175	325	1080	805	4.87

ポルトランドセメント全アルカリ6ヶ月間の最大値 0.63 %

骨材中のNaClの量 0.0 %

混和剤中の全アルカリ量 0.4 %

コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ): R <sub>c</sub> R <sub>c</sub> = (単位セメント量kg/m <sup>3</sup> ) × (セメント中の全アルカリ量Na <sub>2</sub> O <sub>ep</sub> : %/100)	R <sub>c</sub> = 2.048
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ): R <sub>a</sub> R <sub>a</sub> = (単位混和材量kg/m <sup>3</sup> ) × (混和材中の全アルカリ量: %/100)	R <sub>a</sub> = 0.000
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ): R <sub>s</sub> R <sub>s</sub> = (単位骨材量kg/m <sup>3</sup> ) × 0.53 × (骨材中のNaClの量: %/100)	R <sub>s</sub> = 0.000
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ): R <sub>m</sub> R <sub>m</sub> = (単位混和剤量kg/m <sup>3</sup> ) × (混和剤中の全アルカリ量: %/100)	R <sub>m</sub> = 0.019
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ): R <sub>p</sub> R <sub>p</sub> = (単位流動化剤量kg/m <sup>3</sup> ) × (流動化剤中の全アルカリ量: %/100)	R <sub>p</sub> = 0.000
コンクリート中のアルカリ総量(kg/m <sup>3</sup> ): R <sub>t</sub> R <sub>t</sub> = R <sub>c</sub> + R <sub>a</sub> + R <sub>s</sub> + R <sub>m</sub> + R <sub>p</sub>	R <sub>t</sub> = 2.07

コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策 3.0kg/m<sup>3</sup>以下2.07 Kg/m<sup>3</sup> < 3.0Kg/m<sup>3</sup> 判定 適

以上